生活構造調査データ

竹田和雄

今後の社会経済については，成長よりも福祉へ，産業偏重から生活重視へという大きな社会的潮流が必然視されており，これにともなって従来比較的バランスよく成長してきた家計セクターにも種々の問題の生起することが予想され，これに対する分析も要求される．

三井信託銀行では，このような見とおしのもとに生活実態の把握を行なうため，生活構造と生活意識に関するフィールドサーベイを昭和47年6月に全国ベースで実施した．サンプル数は5,000，有効回収数は7割強の3,833である．以下に本調査のデータの内容と使用例を紹介する．

データの内容

本データは下記のような特徴を有している．

① 所得，貯蓄，家族構成，住居の種類，老後生活へのそなえ，支出構造など個人の全体的な生活構造を把握するように広い範囲にわたって調査が行なわれているので，諸種の研究目的への活用が可能である．

② サンプル数3,833個という大型のしかも全国調査なので，調査内容についての信頼度が高い．目的によっては，本データをいくつかの地域ブロックにわけて使用することも可能である．

③ 多変量解析などの計量的接近が容易なようにデータを収録してある．

本データのおもな内容をつぎに示す．

A 世帯主：年齢，学歴，職業，年収など．

B 家族：人数，年齢構成，子供の就学状況，預貯金，借入金など．

C 住居：持家の有無，住居の種類，床面積など．

D 住居取得の経緯（持家世帯）：取得年，価格，資金，買換え，増改築の予定など．

E 住宅取得の計画(非持家世帯)：取得予定年，予算など．

F 老後生活：老後生活の内容，資金準備など．

G 子供の教育：教育費の負担割合など．

H 生涯教育：世帯主の生涯教育のイメージなど．

I 不慮の事故：保険加入額など．

J 家族関係：扶養の義務など．

K 家計の支出構造：飲食物費，衛生医療費，娯楽費などの支出額．

L 生活満足度：飲食，住居などについての満足度．

M 耐久消費財の保有状況

N 各家庭の現在のライフステージ*

*ライフステージとは子供の成長に応じて区切られた家庭生活の中の段階のこと

データの使用例

ここでは，個々の生活者のもつ特性（所得，貯蓄，家族数など）から推計した支出構造方程式を例示する．方程式のフレームワークはつぎのように定式化される．

$$C_i = f_{ijkl}(Y,\ AL,\ FAM,\ v,\ V\ ;\ u)$$

ただし，C_i：生活機能別支出項目ごとの支出額．i は支出項目番号．たとえば C_1 は主食，C_2 は副食・調味料・・・に対する支出額．

Y：所得

AL：貯蓄

FAM：家族数（ファミリーの大きさ）

v：生活価値観

V：都位度（生活環境の合成変量）

u：攪乱項

j：世帯主職業の分類番号

k：ライフステージの分類番号

l：持家か非持家かの分類

この支出構造方程式のパラメータを，生活構造調査データにもとづいて重回帰分析手法を用いクロスセクションで推計した．この結果，支出項目別の構造方程式が職業，ライフステージなどの分類要因ごとに決定される．説明変量は支出項目によってかならずしもすべてが有効とはかぎらない．ときには所得が，ときには貯蓄が，またときには家族数が支配的に説明力を発揮することがある．結果の詳細については報文集[1]，ライフプラニング[2]を参照されたい．

なお，三井信託銀行ではこの生活構造調査データをもとに，生活設計コンサルテーションサービス（マイマップ・システム）を実施していることを付記する．

1) 報文集 T-76-1「オペレーションズ・リサーチのためのデータとプログラムに関する研究」
(社) 日本オペレーションズ・リサーチ学会

2)「ライフプラニング」
三井信託銀行編 東洋経済新報社

(たけだ・かずお 三井信託銀行)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．